



巻頭言／原点に立ち戻り、かつ将来を見据え、 改革の時代乗り切りを

福祉の原点『和顔愛語』発刊 2

新任施設長挨拶(吹田竜ヶ池ホーム・サンヒルズ紫豊館) 3

人材育成 4~5

介護入門、初任者研修にチャレンジしよう！

先輩からのメッセージ

海外研修(ドイツ・スペイン)に参加して 5

地域貢献(高齢者・保育) 6~7

“福祉バス”的有料運行開始 岩戸ホーム

吹田市の福祉避難所に指定 吹田竜ヶ池ホーム

小学校教諭の体験研修受け入れ 一津屋愛育園

地域向け機関紙「きりん」発行 正雀愛育園

8.17集中豪雨禍 6~7

昨年の経験生かし対応 ライフ・ステージ舞夢

床上61cm浸水 厚ディサービスセンター

トピックス 8



おばあちゃんと力あわせお芋掘り 収穫後はスイートポテトに

千里丘愛育園で育ってきたサツマイモが大きくなり、毎年恒例にしている「芋ほり」(9月19日)を、園児(2歳児)たちと、きりんディサービスセンターのおばあちゃんたちが力を合わせて行いました。

サツマイモは春、駐車場横にある第二園庭に苗を植え、子どもたちと水やりしながら大切に育ててきたものです。「おいもはどこかな?」とおばあちゃんから声をかけられながら、子どもたちは一生懸命お芋掘り。顔より大きな芋が掘れると「おおきなおいもがとれた」と子どもたちもおばあちゃんも大喜び!

みんなで掘り起こした芋は、給食の先生にスイートポテトを作ってもらい、おやつの時間におばあちゃんたちと一緒に食べ、歌などを聞いてもらい楽しいひと時を過ごしました。
～千里丘愛育園～



恒例の川舟レースに参加 未経験職員で編成、女組3位と健闘

毎年恒例の川舟レース(舞鶴市加佐ふるさと塾主催)が今年も8月3日に由良川で行われ、ライフ・ステージ 舞夢から男女各チームが参加しました。

参加職員は、職場や地域にじんでもらうために新人や異動職員で編成。全くの未経験者ばかりでしたが、持ち前の根性と団結力で女組は3位に入賞しました。男組は来年にリベンジ狙う！
～ライフ・ステージ 舞夢～

[法 人 理 念]

- 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
- 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
- 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

[サービス目標]

- オンリーワンとナンバーワンを目指す。
- オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

[老人施設経営方針]

- 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する
- 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする
- 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する

[愛育園経営方針]

- 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
- 女性の社会参加の支援に貢献する。
- 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

「食べたら体操しましょう」の曲に合わせ定期的に高齢の方と体操を！



近隣の高齢者のみなさんが、毎朝、体操をされているという情報をキャッチ！

正雀愛育園ではさっそく園でも子どもたちと一緒に体操できないか?と考え、老人会の方や園児の祖父母に声をかけました。おじいちゃん、おばあちゃんの協力が得られ、月1回、子どもたちと高齢の方による体操に取り組み始めました。いわば世代間交流の一環です。

体操は「食べたら体操しましょう」という曲に合わせて行います。なじみやすい曲だったこともあり、子どもたちはすぐに体操を覚え、楽しく体を動かしています。

これからも定期的に行い、体操を通して地域の高齢者のみなさんと触れ合い、関わりを深めていきたいと思っています。

～正雀愛育園～





原点に立ち戻り、かつ将来を見据え、改革の時代乗り切りを

理事長 高岡 國士

日頃より当法人の事業運営にあたり、各方面から多大なご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

社会貢献の「定義」付けに議論も必要

日本の政治状況は安倍内閣のもと、安全保障体制の確立をはじめ、日本の「岩盤規制」といわれた農業（農協の株式会社化）、医療（混合診察）、労働時間性・成果主義、社会保障など各種構造改革が進められています。社会福祉法人も例外ではなく、民法の公益法人改革をモデルに見直しが検討され、具体的には経営の透明化を促す財務諸表開示の義務化、法人のガバナンス（理事会・評議員会）の強化、非課税法人として地域社会への貢献などが義務付けられる見通しになっています。

当面の課題は、社会貢献の実践ですが、その定義をどう捉えるのか、どのような活動をどの程度実践すれば良しとされるのかーなど議論が必要な事項が山積しています。

社福法人の崩壊につながる課税は絶対反対

また、税制改革の中で社会福祉法人の課税問題が急浮上してきました。成長産業育成のため、企業への課税を三十六%から欧米並みの二〇%台に引き下げられ、金額になると三兆円になるともいわれています。その一方で、恒久財源の一つに租税特別措置に該当する社会福祉法人への課税という議論がなされました。

課税は社会福祉法人制度の崩壊につながり、福祉の市場化が一気に進むことになります。社会福祉法人はこれまで、いつの時代にも存在する社会的弱者を支援するため、必要不可欠のセーフティネットの役割を果たしてきました。

冒頭には「施設は地域とともににあるべき」「働く女性たちの力になりたい」といった「法人設立の想い」を掲げ、法人理念や老人施設、愛育園それぞれの経営方針はもとより、ご利用者本位など「大切にしたい想い」、目標を持つた実践力や自らの成長を促す「求めるスタッフ像」を盛り込んだ内容になっています。

「和顔愛語」の和顔とは「優しい笑顔で人に接する」、愛語は「思いやりのある優しい言葉で話す」を意味し、高岡ひさゑ氏から語り継がれてきました。

岡國士理事長が命名。まさに福祉の原点を表す言葉です。

優しい笑顔 思いやりの言葉

福祉の原点をコンパクトに スタッフ全員に配布、使命またす指針

わげんあいご 和顔愛語

発刊

社会福祉法人成光苑はこのほどハンディな冊子『和顔愛語—福祉の原点—』を発刊し、法人内のすべてのスタッフに配布しました。

成光苑の発祥となった千里丘保育所（現千里丘愛育園）創設以来60年余、創業者で先代理事長の高岡ひさゑ氏から語り継がれてきた「法人設立の想い」を継承し、スタッフ全員が「丸となって決意を新たに活動するための指針となるものです。

「和顔愛語」の和顔とは「優しい笑顔で人に接する」、愛語は「思いやりのある優しい言葉で話す」を意味し、高岡國士理事長が命名。まさに福祉の原点を表す言葉です。

和顔愛語・新任挨拶

～幹部研修で高岡理事長～

幹部職員が率先して「和顔愛語」の周知徹底を

成光苑では7月24日（京都会場＝岩戸ホーム）と同28日（大阪会場＝せつ桜苑）の両日、それぞれメンタルヘルス研修（管理職コース）と幹部研修を開き、京都と大阪の高齢者施設の施設長、部長、課長ら総勢約40名が受講しました。

幹部研修では、高岡國士理事長から、中央情勢とこれからの社会福祉法人のあり方について説明がおこなわれたほか、発行されたばかりの『和顔愛語』を取り上げ、成光苑に働くすべての職員に『和顔愛語』の精神を伝えるため、まず各施設の管理職が率先して周知徹底してほしいと訴えられました。

さらに、昭和23年の成光苑設立の想いから、現在、法人理念として掲げられている「地域にあってよかったと思われる施設づくり」実現のために、法人理念や経営方針、成光苑が「大切にしたい思い」や「求めるスタッフ像」について強調されました。

メンタルヘルス研修

管理職に必要な自己への気づき、コミュニケーション力

幹部研修に先立って開かれたメンタルヘルス研修では、心理カウンセラーの西岡三也子氏が、メンタルヘルスの必要性と基礎知識、管理職としてのメンタルヘルスの取り組みや心構えについて講義されました。

近年、メンタルヘルス（精神の健康）を無視して職場の管理は勤まらず、事業経営は成り立たない時代となっています。管理職はまず自分を知ることが大切で、エゴグラム（性格診断法）による自己への気づき、コミュニケーションの達人になるためのグループワークも行われました。

管理職対象のメンタルヘルス研修は次年度以降も継続、年間2回の開催を予定しています。

成光苑役員改選の時期を迎えた今年7月、理事1名、評議員3名の交代が行われました。新評議員のお二人には、成光苑の事業に対する理解を深めていただくため、9月22日に京都北部に立地する岩戸ホーム、サンヒルズ紫豊館、厚デイサービスセンター、ライフ・ステージ舞夢、デイホーム 和夢各施設の視察研修を実施しました。

各施設に足を運んでいただき、現場の声や雰囲気、地域性や施設の特色を実際に感じていただくとともに、運営状況や今後の方針、災害時の対応について各施設長から説明が行われました。

新役員から、高齢者の暮らしに係る住環境の重要性や医療と介護の連携強化の必要性など助言があり、社会福祉法人の今後のあり方、職員への処遇方法についても貴重なご意見をいただくことができました。

ご意見を今後に活かし、成光苑のさらなる質の向上に努めたいと考えています。

新評議員お一人が京都北部の施設設視察
～住環境の重要性など貴重な助言も～



ました。従つて十分な配慮なしに改革が進むと、経済は再建されても、国民生活は貧困問題、格差社会が顕在化することになります。われわれは社会福祉法人への課税に対し絶対に反対すべきであると考えています。

労働力需要・介護百万人、保育八万人

三つの課題は「人財確保策」です。労働力人口の減少、経済の再建や東京オリンピックの開催に伴う労働力の需要が伸び、有効求人倍率は一・一を超えたが、社会福祉における労働力の需要（介護労働不足一〇〇万人・保育士八万人など）は深刻な問題で、対応できなければサービスの質の低下を招き、最悪の場合には施設の労務倒産の可能性があります。介護においては外国人労働者の受け入れも視野に入れ検討する必要性があるといわれていますが、ただ単に受け入れるのではなく、合わせて日本語や介護研修の制度的な体制構築が求められ簡単なことではありません。

今回の改革は、制度や事業の根幹に関わるものばかり。各法人が将来を見据え乗り越えなければならない重大なことであると考えています。

この度、成光苑では法人理念のハンドブック「和顔愛語—福祉の原点—」を作成し、法人内の全職員に配布しました。社会福祉法人の大きな転換期を迎えた今、福祉の原点に立ち戻り、成光苑が目指してきたものを改めて認識することにつながったと思っています。これからも地域の一員として活動し、地域に愛される施設づくりが実現できるよう努力する所存ですので、引き続き変わらぬご支援を頂きますようお願い申し上げます。

最近の出来事

6月～9月

○社会福祉法人制度の見直し

- ・安倍政権の構造改革の一環として検討が進む（社会保障審議会福祉部会など）
- ・平成27年通常国会にて法改正、平成28年4月施行予定
- ・経営組織のあり方、運営の透明性の確保等が議論される
- ・公益法人制度改革の提言など

○介護保険

- ・医療と介護が連携体制の強化
医療介護総合推進法の成立（26年6月）
医療介護総合確保促進会議の開催
- ・平成27年度介護報酬改定に向けた介護予防給付・補足給付の見直し

○児童（子ども・子育て会議）

- ・子ども子育て支援新制度の検討

- ・障がい児支援のあり方に関する検討が進む
- ・保育士待遇改善加算、使途制限のあり方を提示

○障がい

- ・報酬改定に向けたヒアリングがスタート

○人材確保

- ・福祉人材確保対策検討会（厚生労働省）
- ・専門職としての介護福祉士の社会的評価の向上の必要性
- ・外国人労働者を介護人材としての確保

○生活困窮者支援

- ・生活困窮者自立支援への社会福祉法人の参画
- ・生活困窮者等の就労促進に関する協議会（厚生労働省）に全社協などが参加

社会福祉振興・試験センターと福祉施設共済会が実施した『社会福祉施設経営管理者海外研修』(9月1日～11日)に参加しました。訪問国はドイツとスペインの2カ国で、参加者は14名。

両国では州政府(行政)をはじめ高齢、障害児童福祉の10施設を公式訪問し、担当者からそれぞれの国での福祉事情や運営について説明を受けた後、施設見学や意見交換などを行いました。午前中の訪問が時間超過したため昼食中に飛び入り参加してもらい意見交換が続いたこともあり、内容の濃い研修となりました。

ドイツは日本より6年早く介護保険制度がスタートしていますが、被保険者に年齢制限ではなく、介護が必要と医師が判断すれば何歳でも介護保険サービスを受けることができます。

海外視察研修に参加して

【ドイツ】介護保険被保険者に年齢制限なし

サンヒルズ紫豊館 施設長

岩吹 泰志

社会福祉振興・試験センターと福祉施設共済会が実施した『社会福祉施設経営管理者海外研修』(9月1日～11日)に参加しました。訪問国はドイツとスペインの2カ国で、参加者は14名。

両国では州政府(行政)をはじめ高齢、障害児童福祉の10施設を公式訪問し、担当者からそれぞれの国での福祉事情や運営について説明を受けた後、施設見学や意見交換などを行いました。午前中の訪問が時間超過したため昼食中に飛び入り参

加してもらい意見交換が続いたこともあり、内容の濃い研修となりました。

ドイツは日本より6年早く介護保険制度がスタートしていますが、被保険者に年齢制限ではなく、介護が必要と医師が判断すれば何歳でも介護保険サービスを受けることができます。

大阪会場でも9月からの講座(第2回目)始まる 引き続き12月にも実施、受講生歓迎!

成光苑大阪地区の介護職員初任者研修(2回目)が9月27日から始まりました。引き続き、12月にも大阪会場でも開催します。

前回2月の研修には成光苑の職員も受講し、現在、介護職として従事しています。

今回も、成光苑の保育から高齢者施設へ異動した職員の受講希望があり、在職中の職員がスキルアップを目指して受講する

ケースも少なくありません。

講座内容は座学全9日、演習全7日で、土、日曜日に実施します。学生、社会人の方にも受講しやすくなっていますので、成光苑以外からの受講生も大いに応募してください。

【お問い合わせは】成光苑 吹田竜ヶ池ホーム
(06-6310-7353 初任者研修担当者)へ。

介護職員初任者研修

就活OK、家庭でも役立つ介護入門講座にチャレンジしよう! 親切・丁寧に指導します -成光苑-

地域のみなさん、学生の諸君、成光苑で、就活はもちろん、家庭でも役立つ介護の資格取得にチャレンジしませんか!

昨年4月から、「訪問介護員養成研修(ヘルパー1級～3級)」と「介護職員基礎研修」が「介護職員初任者研修」に一元化されたのは周知の通りです。

成光苑では大阪、京都各エリアで初任者研修講座を実施していますが、修了者も育ってきています。

初任者研修は、訪問介護事業に従事しようとする方、あるいは在宅、施設を問わず、介護の業務に従事したい方が対象となります。

当法人ではこれまで、京都エリアで各都道府県が指定した

養成機関として実施してきましたが、今年2月から大阪エリアでも複数回行っています。

実施の目的の一つは、当法人に従事する無資格者への資格取得支援がねらい。また、年齢、学歴を問わず、福祉・介護に興味のある方や就活の一環として、受講生から福祉職への就職の橋渡しの役割も担っています。

今後100万人規模で介護人材が必要とされ、深刻な人材不足になっているのが実情です。成光苑では親切・丁寧な指導をモットーに、各地域の福祉人材養成を通じて人材確保、人材育成の使命を果たしていきたいと思っています。

～先輩からのメッセージ～

「チャレンジを応援する」の言葉が心に響いた!
管理栄養士 稲垣 希
岩戸ホーム 平成26年4月入職



“食事は楽しみ”のアイデア出し実行したい

私は、特養に入所している祖父を見て「食事は楽しみであるべきだ」との思いが強くなり、高齢者福祉施設での就職を希望しました。成光苑は面接の時、「チャレンジを応援する」と言ってくださったのが心に響きました。実際の職場で応援とフォローをしてもらっています。

管理栄養士の仕事は、利用者の栄養ケアマネジメントや食事の調整、委託給食会社との調整、衛生管理が中心ですが、加えて併設の喫茶をより良くするためのお手伝いや事務的な作業も行います。職種に関係なく多くの先輩から、求めれば求めるだけ教えていただけるので、経験を積んでいるところです。

今後はご利用者に食事を楽しんでもらえるようなアイディアを出し実行できればと考えています。

漢字教育など可能性を伸ばす保育に感銘



保育士 西村 珠梨
第二愛育園 平成26年4月入職

子どもの言葉や行動から多くを学ぶ

私は、成光苑の漢字教育、リズム運動など子どもの可能性を伸ばす保育に感銘を受け就職先に決めました。

現在、成光苑の一員として先輩方の適切なアドバイスを受けながら、理想とする保育をめざし頑張っています。

わからないことがあれば先輩がすぐ相談に乗ってくれ、問題解決のためのアドバイスをしてくれます。このような環境の中でも多くのことを学ぶことができるるのは、これから私にとって大きな財産です。

子どもたちの言葉や行動から刺激を受けることが多く、保育士として子どもたちに学ぶこともあります。そんな子どもたちの可能性を伸ばせるよう寄り添い、ともに成長していきたいと思っています。



受講生19名に修了証を授与

うち在日外国人9名も

ライフ・ステージ 舞夢の初任者研修講座

ライフ・ステージ 舞夢(舞鶴市)では、4月28日開講の介護職員初任者研修が9月8日に終了し、19名の受講生が修了証を授与されました。なかには9名の在日外国人の方も一緒に受講されました。

介護人材の不足は、日本だけでなくアジア地域においても深刻な問題になっています。介護の現場で「考え」「実践できる」人材を育成することが社会貢献であるとの考え方から、来年度も研修講座を継続する予定です。

また、在日フィリピン人の方に「介護の日本語」を学んでもらう「つぼみの会」(月1回開催)も継続しています。介護の世界をめざす多くの方の学びの場、一步を踏み出す場として応援しています。

サンヒルズ紫豊館は
10名に修了証

サンヒルズ紫豊館(福知山市)が5月10日から実施していた介護職員初任者研修は9月27日、閉講式を行い終了しました。今回は10名の受講生が全課程を修了され、修了証を授与しました。

仕事を続けながらでも休日を使って受講ができるよう土日に開講しました。働きながらの受講生には、仕事の疲れなど負担も少なくなかったと思われますが、最後まで意欲的に取り組まれていました。



保育を見学し活動に参加も 一津屋愛育園

一津屋愛育園では「平成26年度社会体験研修」の受け入れを行い、隣接する味生小学校から、若いフレッシュな男性教諭1名が来園されました。大阪府教育委員会と摂津市教育委員会の要請に応えたもので、本年度の公立小学校在職2年目の教諭を対象とする新任教諭の研修の一環です。

今回来園された先生は8月中旬の2日間にわたり、朝から夕方まで保育を見学、同時に当日の保育活動の実際に沿い参加するなどの研修に取り組みました。

短期間でしたが、たいへん積極的に子どもたちと関わって頂き、交流が深まる様子が感じられました。この経験が教諭ご自身の今後の教育活動に少しでも活かされますよう願っています。

当園にとっても、身近な小学校から先生が保育現場に足を踏み入れてくださったことで、これまで以上に小学校との連携が親密なものとなり、ひいては保育園が目標とする「養護と教育」の質の向上にもつながる大きな一助になると想え、期待も膨らみます。

小学校教諭の社会体験研修受け入れ



地域向け機関紙「きりんだより」発行

園の行事など情報伝え、愛育園を身近に 正雀愛育園

正雀愛育園では、昨年度から地域向けの機関紙「きりんだより」を発行しています。

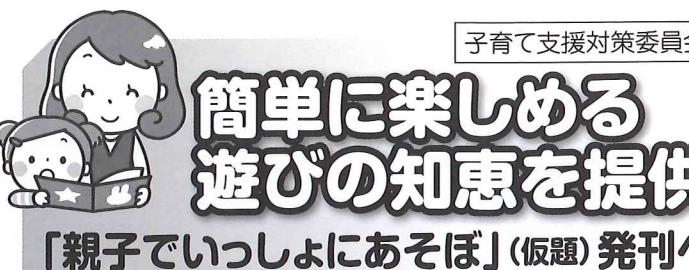
「きりんだより」(B4サイズ)は単に園内や保護者を対象にしたものではなく、地域の高齢者や在宅の親子、当園の親子教室に参加されている方、さらに近隣の方に配布、愛育園に親しみをもつてもらえる情報を発信するのがねらいです。

今年度は8月29日に発行。内容は園での行事や子どもたちの活動ぶり。年3回の発行を目指しています。

現在はインターネットの時代、情報入手は容易ですが、パソコンなどが不得手な方にも情報が行き渡るようにとの思いも込め、地域の方に愛育園を身近に受け止めてもらえるような機関紙作りを目指したいと思っています。

れ合える遊びを年齢別に紹介。付録には手作りおもちゃの作り方を掲載することにしています。

親子が一緒に、手軽に開いてもらえるイラストを中心としたかわいいハンドブックにしたいと考えています。ご期待ください。



子育て支援対策委員会

簡単に楽しめる遊びの知恵を提供 「親子でいっしょにあそぼ」(仮題)発刊へ

子育て支援対策委員会では、今年度の子育て支援の活動の一つとして、家の中で過ごすことが多い親子のみなさんに、簡単に楽しんでもらえる遊びの知恵を提供する冊子「親子でいっしょにあそぼ(仮題)」を作成、近く発刊することになりました。

内容は主に、タオルなどの身近にあるものを使っての遊びのほか、手遊び、わらべうたといった、ちょっとした時間に子どもと触

水害 8.17集中豪雨で床上61cmの浸水 仲間の応援受け9月から1日利用を再開 厚ディサービスセンター

福知山市では8月中旬の局地的集中豪雨で道路が冠水、床下床上浸水する多数の家屋が出ましたが、同市厚にある厚ディサービスセンターも大きな被害を受けました。昨年の台風18号に次ぐ2年続いた被災となりましたが、多くのボランティアの方やたくさんの支援をいただき、完全復興に向かっています。

同月17日深夜2時頃から道路に水が増え始め、あつという間に施設内にも水が流入、61cmの高さまで床上浸水、車両が浸水しました。その日の夕方頃にやっと水が引き、駆けつけた職員が施設内の泥かきを行いました。翌日には成光苑京都から多くの職員が応援に駆け付け復旧作業、21日には敷地内の土砂を取り除くことができました。

17日以降、営業休止状態となり、ご利用者にはご迷惑をかけましたが、20日から岩戸ホームディサービスの風呂を利用、25日からは職員も一緒に紫豊館ディ



サービスを緊急利用させてもらいました。28日にやっと厚ディの風呂、ボイラーなどが復旧、入浴のみのサービス提供を開始することができました。

また、エレベーターが利用不能で2階のデイフロアが使えない状況でしたが、9月1日から階段を昇り降りしていただき厚ディでの1日利用を再開。昇り降りは職員が見守り・介助を行いましたが、車いす移動されていたご利用者が介助で階段を昇り降りされ「私もまだまだ歩けるな」と、職員も驚く一幕もありました。エレベーターの復旧にはしばらく時間がかかりますが、通常利用が早く再開できるよう復旧作業を急いでいます。

今回の被災に際し、ご利用者のご家族からもボランティアの声がかかったり、タオルなどの寄付をいただき、地域のみなさんによく支えられているということを実感させられました。

“福祉バス”の有料運行開始

地域交通機関として10月1日から 岩戸ホーム

料金はタクシーの2分の1以内



岩戸ホーム(福知山市)はこれまで福祉バスを運行していましたが、継続的なバス運行を図るために、福知山市と協議を重ね、今年10月1日から過疎地有償運送事業を開始しました。

過疎地有償運送とは、バスやタクシーといった公共交通機関のない過疎地域などで、住民の移動手段が確保できないと認められる場合、登録会員を対象に輸送するサービスのことで、料金は概ねタクシーの2分の1以内となっています。

岩戸ホームを出発地とする福祉バスは、地域の高齢化に伴う交通機関として平成13年から無料で運行。利用者は年間5000人以上にのぼり、地域住民、施設入居者の間に定着してきた経緯があります。今回、地域貢献の一環として、福祉バスを強化発展させ、再出発したものです。



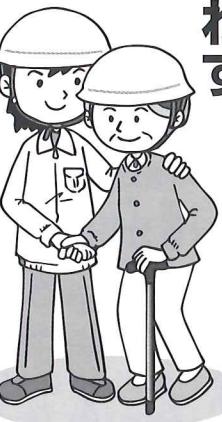
高齢者・障害者受け入れ、生活必需品の提供など支援

吹田竜ヶ池ホームは吹田市が災害に見舞われた際の二次避難所(福祉避難所)に指定されました。

今年8月1日付で、同市の井上哲也市長と「災害発生時における二次避難所(福祉避難所)の指定及び設置・運営に関する協定書」を交わしたものです。指定避難所での生活が困難になった、あるいは困難と判断できる災害時要援護者を受け入れる機能を果たすことになります。

福祉避難所の役割は、吹田市災害時要援護者支援プラン(全体計画)に基づき必要な食料、寝具、生活必需品の提供や貸与、相談、福祉サービスの提供、保健医療サービスを受けるための援助、健康に異常をきたした場合の医療機関への連絡など。

対象者は高齢者や障害者、受け入れ場所は地域交流スペースや相談室などを利用し、福祉避難所の施設管理のための当直者を配置します。災害時に適切な支援が行えるよう体制づくりを強化する方針です。



地域の福祉講座に講師派遣 安心して暮らせる「特養」をテーマに

せつつ桜苑

内容は、特別養護老人ホームの根拠法や介護老人保健施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など他施設との違い、入所申込の仕方、入所費用、施設とトラブルになりやすい事例など。受講者が聞きたい質問についてわかりやすく解説。ほとんどの受講者から「理解できた」「大きい役立つ」の声が寄せられました。

昨年、自治会長と民生委員を対象に実施した法人アンケートで、特別養護老人ホームのことを知らないという内容があり、これから的生活を安心して過ごしてもらうために、正しい情報を提供したいという思いが今回の福祉講座につながったものです。

水害 昨年の経験生かし物資調達や人員確保

照明の確保や水の供給など課題も

ライフ・ステージ 舞夢

今年の8月豪雨(8月16日～17日)で由良川が氾濫。ライフ・ステージ 舞夢(舞鶴市)周辺の道路が冠水、通行止めになり孤立状態となりました。昨年の台風禍の経験をもとに防災委員会が中心となって対応し、水、食料、防災備品はもちろん、交通が遮断される前に出勤できる人員の確保を行いました。

雨の中、地域の方が、浸水する前に自家用車や農機車両を当施設に避難させてござりました。

施設では、夜間3時間にわたり停電。真っ暗な中、夜勤者が懐中電灯の明かりを頼りにご利用者の対応にあたりました。また、PHSや内線が使えず、トランシーバーを手に各階との情報共有に努めました。

トイレは自動で水が流れないので、事前に溜めておいた水をバケツで運んで流す措置をとりました。

ご利用者の安全、安心の確保を最優先に努めましたが、新たに課題も見えてきました。停電したときの照明の確保、貯水槽からの水の供給など。引き続き災害に強い施設づくりをめざし、ご利用者や地域の方の力になりたいと思っています。

